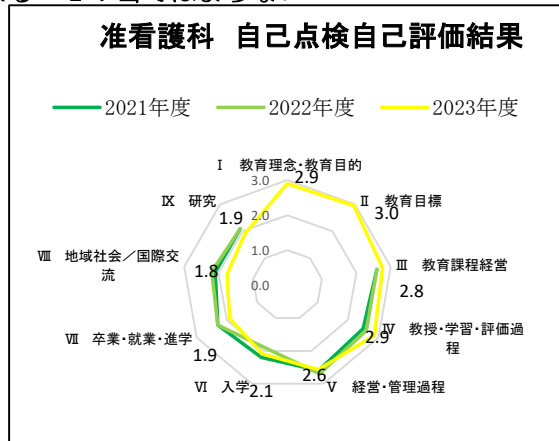


## 4. 2021・2022・2023年度 自己点検自己評価結果 准看護科

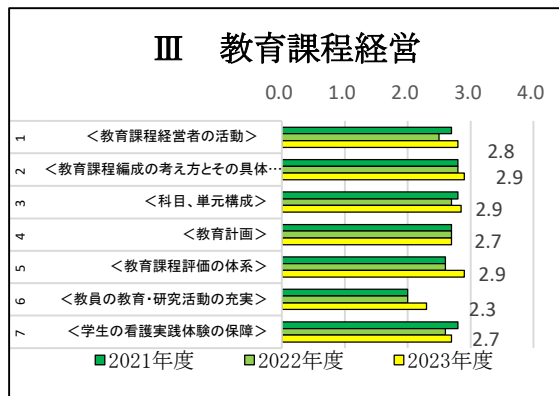
〈評価基準〉 3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

	2021年度	2022年度	2023年度
I 教育理念・教育目的			2.9
II 教育目標			3.0
III 教育課程経営	2.6	2.6	2.8
IV 教授・学習・評価過程	2.5	2.6	2.9
V 経営・管理過程	2.6	2.7	2.6
VI 入学	2.2	1.9	2.1
VII 卒業・就業・進学	2.3	2.3	1.9
VIII 地域社会／国際交流	2.1	2.2	1.8
IX 研究	2.1	2.1	1.9



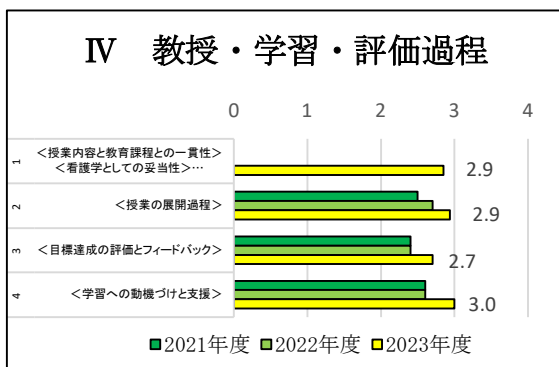
### III 教育課程経営

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.7	2.5	2.8
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.8	2.8	2.9
3 <科目、単元構成>	2.8	2.7	2.9
4 <教育計画>	2.7	2.7	2.7
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.9
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.0	2.0	2.3
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.8	2.6	2.7
平均	2.6	2.6	2.7



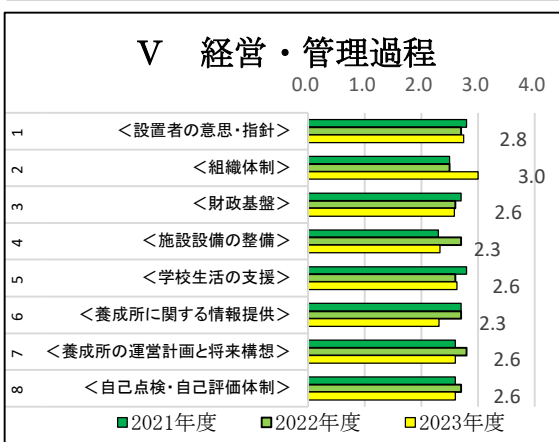
### IV 教授・学習・評価過程

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <授業内容と教育課程との一貫性> <看護学としての妥当性> <授業内容間の連携と発展>			2.9
2 <授業の展開過程>	2.5	2.7	2.9
3 <目標達成の評価とフィードバック>	2.4	2.4	2.7
4 <学習への動機づけと支援>	2.6	2.6	3.0
平均	2.5	2.6	2.9



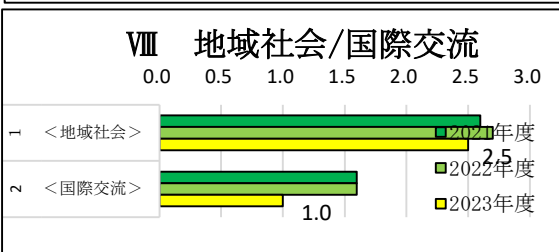
### V 経営・管理過程

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <設置者の意思・指針>	2.8	2.7	2.8
2 <組織体制>	2.5	2.5	3.0
3 <財政基盤>	2.7	2.6	2.6
4 <施設設備の整備>	2.3	2.7	2.3
5 <学校生活の支援>	2.8	2.6	2.6
6 <養成所に関する情報提供>	2.7	2.7	2.3
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.6	2.8	2.6
8 <自己点検・自己評価体制>	2.6	2.7	2.6
平均	2.6	2.7	2.6



### VIII 地域社会／国際交流

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <地域社会>	2.6	2.7	2.5
2 <国際交流>	1.6	1.6	1.0
平均	2.1	2.2	1.8



## 2023 年度 重点課題に対する評価 准看護師

【評価基準】	評価点
4：達成できた 3：まあまあできた 2：あまりできていない 1：達成できていない	(平均)
1. 看護に対する興味関心を持たせ、中途退学者の減少を目指す	1.8
①看護の魅力が伝わるような授業教材の工夫	2.5
②教育力を高めるための情報収集（書籍や研修会）	2.0
③成功体験を積み上げることが出来る関わり	2.3
④学生が求める支援に繋げるために、教員間の学生に関する情報の共有を行う	3.0
2. 健全な学校運営のための学生定員の充足	1.0
①学生定員の7割を満たす	1.3
②学校訪問やオープンキャンパスで、本校の強み（准看護師試験13年連続100%、看護科を持っており、進学しやすい等）を最大限にアピール	2.5
3. 働き方改革の実現	3.0
①業務の効率化や均等化を図るために、職員それぞれが声を掛け合い協力し合う	2.0
②一人ひとりが活動と休息のバランスを心掛ける	2.0

重点課題1の評価としては1.8と低い結果であった。しかし、詳細の目標に関しては、①2.5②2.0③2.3④3.0と全体の評価より高い。2023年度は6名の退学があったことが全体の評価に大きく影響している。退学理由としては「学科試験や技術試験に不合格」を理由に「進路変更」が多く、看護の魅力が十分に伝わらなかったと考える。①に関しては、看護は実践でありその魅力が伝わるように演習等を多く取り入れ、興味関心が持てる工夫を行った。その結果、学生の卒業時のアンケートからは「技術が身についた」という意見が多く聞かれた。今後は講義・演習を実習につなげ、更に看護の魅力が伝わるよう工夫していく。②に関しては、教員は講義や実習指導以外にも多くの業務を抱え「十分に自己研鑽する機会（時間）がとれない」という意見がある。しかし、看護は日進月歩であることから、常に新しい情報を収集し学生に還元できるように、次年度は時間を見つけ取り組んでいきたい。③に関しては、技術においては練習を積み重ね「出来た」という達成感につながる指導を意識した。しかし、実際の患者に対する援助においては、実習での成功体験を持たせることは難しいと感じていることから、低い評価となっている。そのため、実習で成功体験を少しでも感じられるように学生の強みに着目し指導していく。④の学生が求める支援に関しては、必要に応じて情報を共有し支援につながるよう努力した結果、学生のアンケートからは「教員とコミュニケーションが取れている」「指導に愛を感じる」「親身になってくれる」などの意見があり、教員の関わりについては、しっかり学生に届いていると評価できる。しかし、「教員へ望むこと」のアンケートから、「認めてほしい」「ほめてほしい」というZ世代の特徴でもある承認の欲求が強いこともうかがえる。学生を理解する点では課題もあるため、「Z世代」の学生に対し、まずはその特徴を理解して支援していく必要があると考える。

重点課題2としての評価は1.0と低値であり、①～②に対する教員の評価は、①1.3②2.5であった。①の評価が低い理由として、今年度の新入生が14名と過去最少人数を更新し、目標の7割(28人)には到底満たなかったことでの結果であり、重点課題1の評価にもつながっている。福岡県内の准看護師養成所も同様の状況である。教員からは社会情勢(少子化、看護教育の大学化、人材不足)や地域性などから、学生の増員は難しいのではないかとの意見もある。②に関しては、新型コロナウイルス感染症以降2023年度からは学校訪問を再開し、オープンキャンパスも例年通り8月9月に3回実施したが参加者は少なく、本校の強みをアピールする場はあっても、伝える対象者が集まらなかった。しかし、オープンキャンパスに参加した学生のほとんどが入学へと繋がっているため、健全な学校運営のためにも、更なる本校の魅力をアピールする内容・方法を検討していく必要があると考える。

重点課題3の評価に関しては、協力しあい休みやすい環境を作る努力をした結果、5日/年以上の年休取得ができたことで全体の評価は3.0と高かったが、①②についてはともに低い結果であった。①に関しては、教員からの意見として、声を掛け合い協力しやすい関係ではあった。しかし、初めてする業務は何を依頼したらいいのかわからないことや、自分でしたほうが早い・自分が頼めなかったという意見もあり、「業務の効率化や均等化」を図るためには業務移譲について検討していく必要があると考える。

②に関しては、「複数の業務を遂行しなければならず、役割の業務が増えたことにより授業の準備時間がない」という現状がある。そのため、休みでも持ち帰って講義準備をすることもあり、ワークライフバランスにはつながっていないことも考えられる。今後は、できるだけ就業時間内に講義の準備時間を確保できるような、業務内容の見直しや時間調整を検討していく。

## 2024年度 重点課題 准看護科

1. 看護に対する興味関心をもたせ、中途退学者の減少と看護科への進学率アップ（7割）を目指す
  - ①現代の若者（Z世代）の特徴を理解し、学生に応じた支援に繋げる
  - ②看護の魅力が伝わるような授業教材の工夫や教育力を高めるための情報収集（書籍や研修会）をする
  - ③学生の強みを見出し、成功体験を積み上げることが出来る関わりをする
  
2. 健全な学校運営のための学生定員の充足
  - ①定員充足率5割以上を満たす
  - ②社会人入試を復活させたことで、社会人学生を増やす（3割）
  - ③学校訪問やオープンキャンパスで、本校の強み（准看護師試験の高い合格率、看護科を併設しており進学しやすい等）を最大限にアピールする
  
3. 働き方改革の実現
  - ①職員同士の協力や一人ひとりが活動と休息のバランスを図る
  - ②授業の準備時間を確保するために、業務の移譲を検討し効率化を図る